

ペテロ

第一

①

# 次の世代の 誰かのために

ペテロの手紙第一 1章1～12節 挨拶・奨励

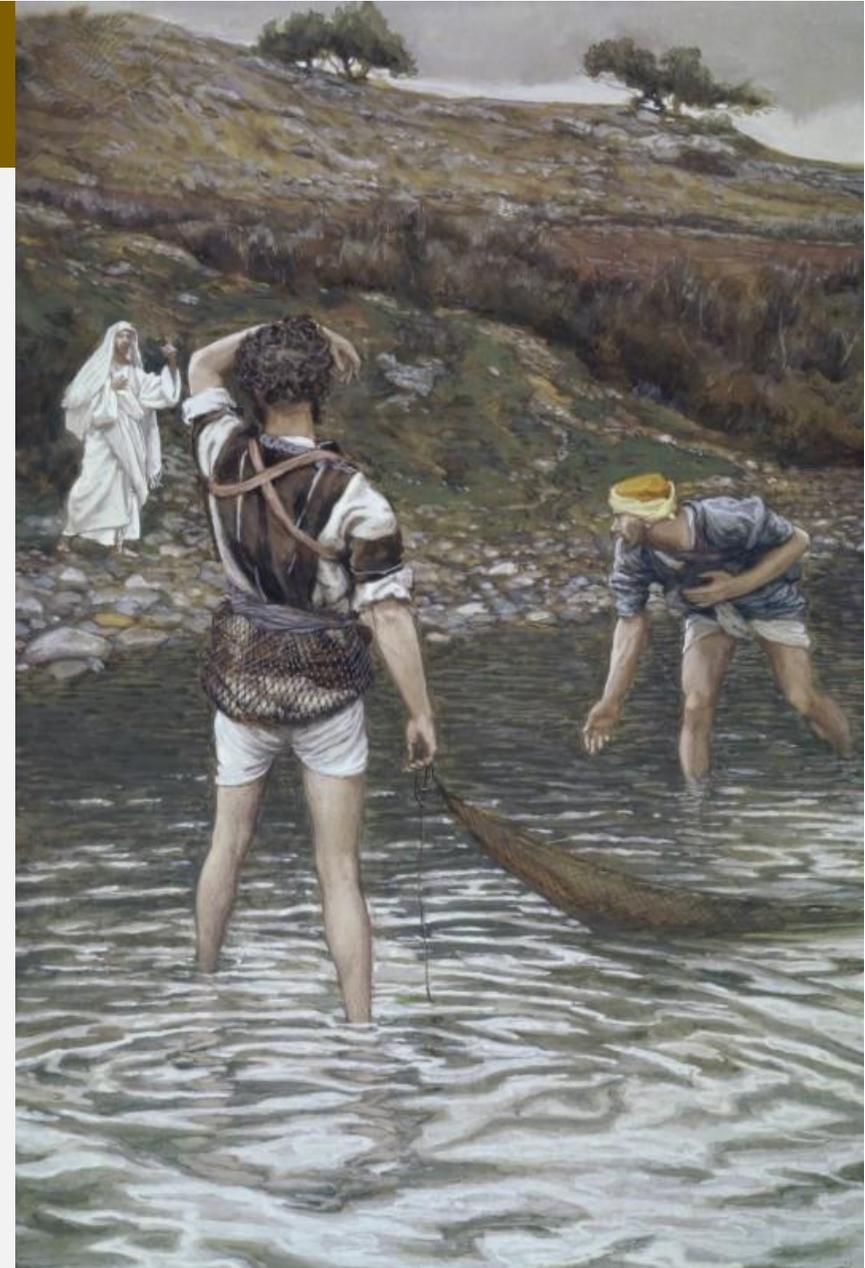
# アウトライン

I. ペテロとは？

II. 挨拶と奨励 1:1~1

III. まとめと適用

次の世代の誰かのために





# I. ペテロとは？

## ペテロの手紙第一とは？

- 著者 …使徒ペテロ  
ユダヤ人の使徒(柄2:8)
- 宛先 …小アジア(トルコ)の  
離散(ディアスポラ)の  
メシアニック・ジュー
- 執筆時期・場所  
…バビロン(5:13)、古来の離散の地
- おもな目的 …迫害に苦しむ  
信者の励まし





- パウロは西に、ペテロは東に?!
- バビロンには、古いユダヤ人共同体が。
- 東方の博士たちも!!  
メシア預言でも重要!!

## ペテロとは？

- ガリラヤ湖の漁師(網元)。既婚。兄弟はアンデレ。
- 洗礼者ヨハネの弟子から、  
→メシアの弟子 →フルタイムの弟子
- 12使徒。イエスの変貌を目撃。素直な信仰。挑戦と失敗、悔い改め。教会指導者として任命。
- 聖霊降臨後、福音宣教の先端を拓く。おもにユダヤ人伝道を担う(ガラ2:7)



## 聖書の中でのペテロの位置づけ

- 12使徒。さらに3人のリーダーの一人。歴史的信仰告白。宣教の鍵を付与。イエスの変貌を目撃。イエスを三度否定。
- 十二使徒で最初に復活のメシアに会う。メシアとの和解。指導者に任命。
- ユダヤ人、サマリア人、異邦人への福音宣教の扉を開く。
  - ➔ 使徒の働きの後半には登場しない。

※ペテロがローマに行った記述はない。



## ペテロがローマ教皇のルーツ？

- イエスの母マリアの記載は、使徒1:14まで。マツティア選出前。聖霊降臨では記載なし。
- ペテロの最後の登場は、使徒15:7。第一次宣教旅行後の**エルサレム会議**。
  - ➔ 異邦人の救いの条件が確認
- パウロ書簡では、ガラテヤ2:7～8のみ
  - ➔ 西はトルコまで？
  - 以降、**東(バビロン)**に向かった？
- ペテロのローマ行き、殉教はあくまで伝承。



聖書では  
ペテロは  
ローマに  
行ってない

## パウロ書簡や、ルカの著作との一致を確認していこう

### ■ ガラテヤ2:7

「ペテロが割礼を受けている者への福音を委ねられているように、私(パウロ)は割礼を受けていない者への福音を委ねられている」

① ペテロ → 割礼を受けている者 ユダヤ人伝道 → 東へ

② パウロ → 割礼を受けていない者 異邦人伝道 → 西へ

書かれた場所も対象も違うが、内容は一致



## Ⅱ. 挨拶・奨励

ペテロの手紙第一1:11~12

トルコ・カッパドキア地方

## 挨拶 使徒による手紙 ペテロ1:1

イエス・キリストの使徒ペテロ\*から、ポントス、ガラテヤ、カパドキア、アジア、ビティニア\*に散って寄留している\*選ばれた人たち\*、すなわち、

\*使徒 = 大使。キリストは神の使徒(ヘブ3:7)

メシアの使徒ペテロの権威に基づく手紙

\*小アジア(トルコ)の北部の地域

…ペテロも訪問?(ガラテヤ2章)

\*ディアスポラ…離散したユダヤ人

\*福音を信じたメシアニック・ジュー



## 挨拶 メシアの血による贖い ペテロ1:2

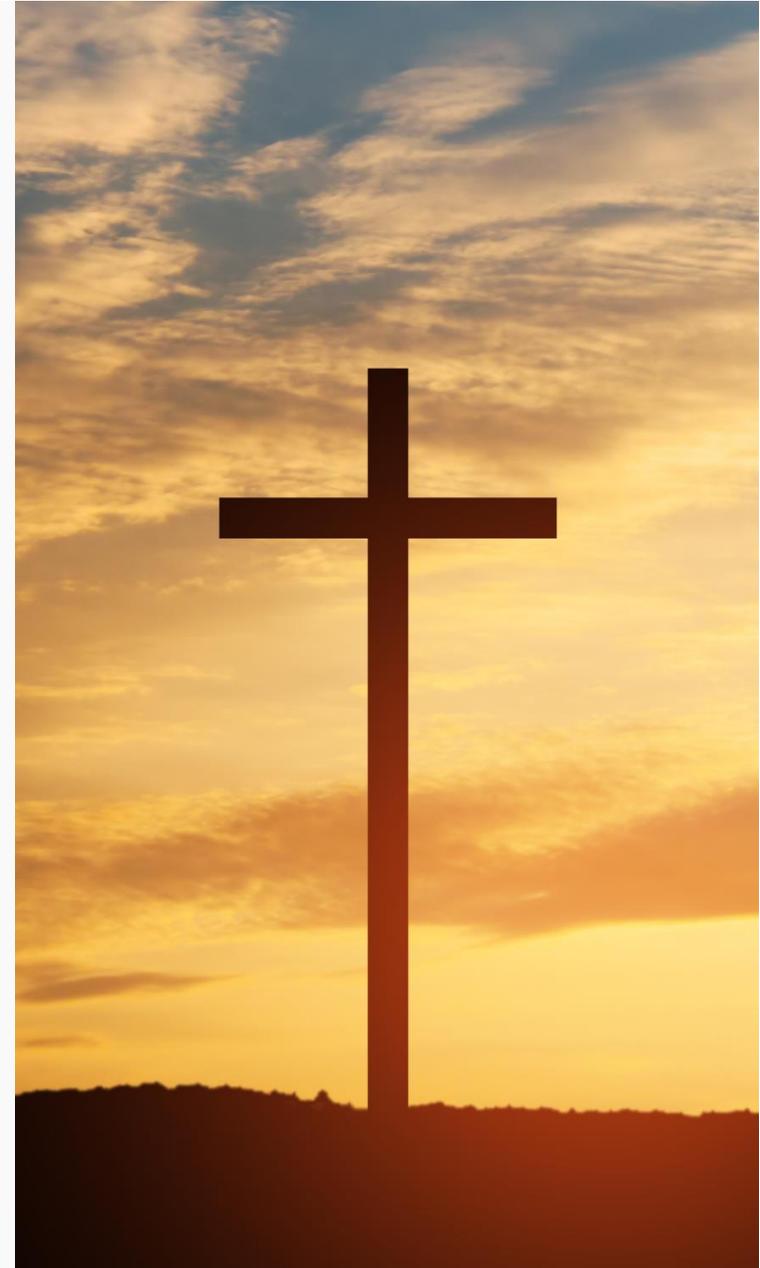
父なる神の予知のままに、御霊による聖別によって、イエス・キリストに従うように、またその血の注ぎかけを受けるように\*選ばれた人たちへ。恵みと平安が\*、あなたがたにますます豊かに与えられますように。

\*父子聖霊なる三位一体の神によって!!

\*大祭司は、贖罪日、贖いの座に犠牲の血をふりかけた。

➡大祭司イエスの血潮できよめられた

\*ギリシャ式+ヘブル式の挨拶…パウロも



## 賛歌

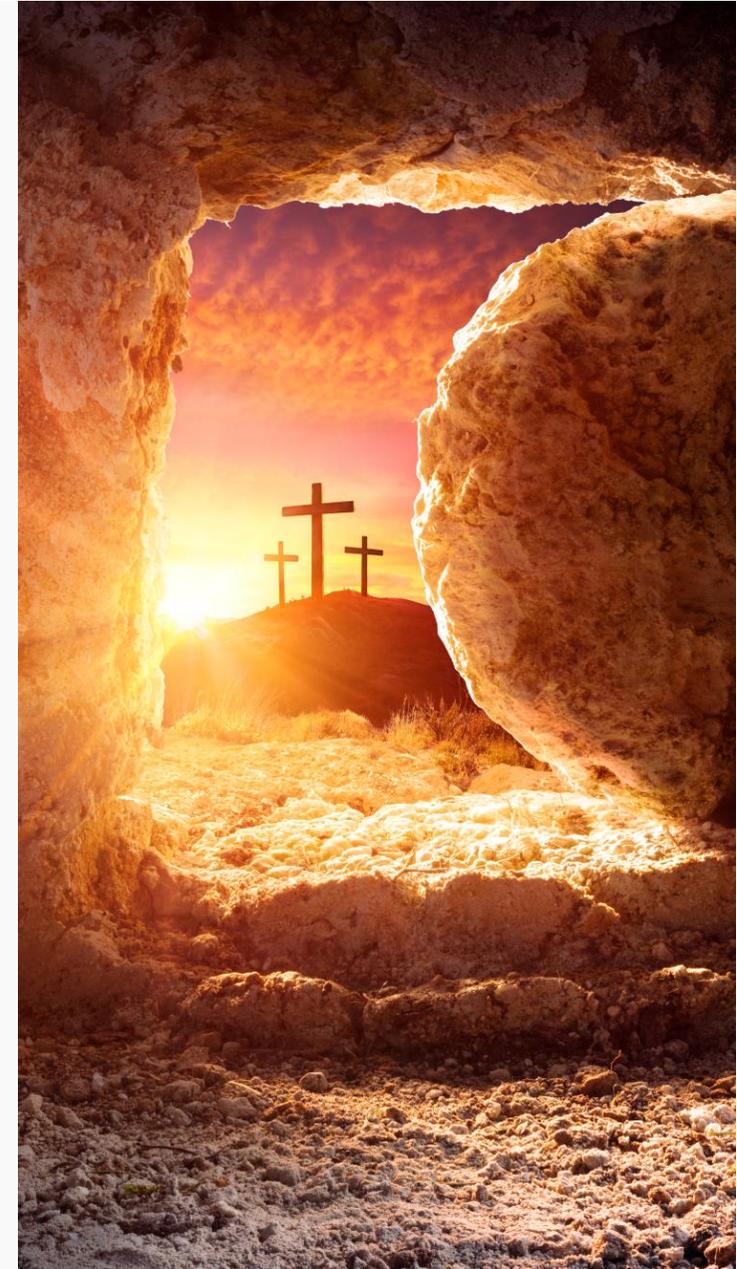
## 復活による希望 ペテロ1:3

私たちの主イエス・キリストの父である神がほめたたえられますように\*。神は、ご自分の大きなあわれみのゆえに、イエス・キリストが死者の中からよみがえられたことによって\*、私たちを新しく生まれさせ\*、生ける望みを持たせてくださいました。

\*まず唯一の神をたたえる➡ユダヤ人の基本

\*主イエスの復活こそが、私たちの希望

\*福音を信じた瞬間に新生



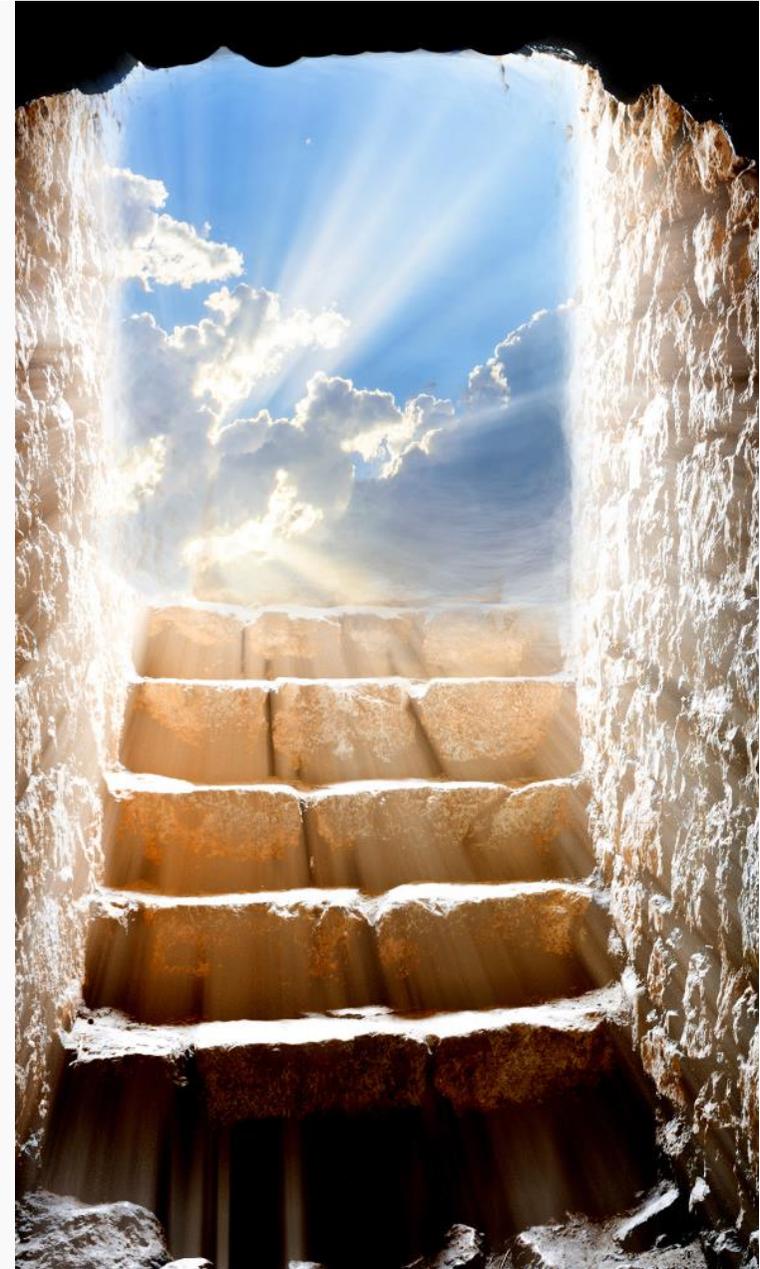
## 奨励

## 信仰がもたらす資産 ペテロ1:4

また、朽ちることも、汚れることも、消えて行くこともない資産を受け継ぐようにしてくださいました。これらは、あなたがたのために天に蓄えられています。

### ■主イエスの命令 マタ 6:20

「自分のために、天に宝を蓄えなさい。そこでは虫やさびで傷物になることはなく、盗人が壁に穴を開けて盗むこともありません。あなたの宝のあるところ、そこにあなたの心もあるのです。」



## 奨励

## 救いの完成へ ペテロ1:5

あなたがたは、信仰により、神の御力によって守られており、**終わりの時に現されるように用意されている救い\***をいただくのです。

\*福音を信じて終わり、ではない

■福音を信じて救われる、**義認**は始まり。

地上生涯で歩む**聖化**の課程で成長し、

神の国で栄光の体を与えられ、完成(**栄化**)

信仰のゴールを意識することの大切さ



挨拶

## 試練による精錬 ペテロ1:6~7

そういうわけで、あなたがたは大いに喜んで  
います。今しばらくの間、様々な試練の中で  
悲しまなければならぬのですが、

試練で試されたあなたがたの信仰は、火で精  
錬されてもなお朽ちていく金よりも高価であ  
り、イエス・キリストが現れるとき、称賛と  
栄光と誉れをもたらします。

■ 地上生涯の間。あるいは携挙の時まで。

信仰者には試練があり、悲しみがある。

➡ 信仰が錬られ、栄化に達するために



## 試練がもたらす希望

### ■ローマ5:2~4

このキリストによって私たちは、信仰によって、今立っているこの恵みに導き入れられました。そして、神の栄光にあずかる望みを喜んでいきます。

それだけではなく、苦難さえも喜んでいきます。それは、苦難が忍耐を生み出し、

忍耐が練られた品性を生み出し、練られた品性が希望を生み出すと、私たちは知っているからです。

## 報いを受けさせるため、主は試練を与えられる

### ■ I コリント3:11~15

だれも、すでに据えられている土台以外の物を据えることはできないからです。その土台とはイエス・キリストです。

だれかがこの土台の上に、金、銀、宝石、木、草、藁で家を建てると、それぞれの働きは明らかになります。「その日」がそれを明るみに出すのです。その日は火とともに現れ、この火が、それぞれの働きがどのようなものかを試すからです。

だれかの建てた建物が残れば、その人は**報い**を受けます。

だれかの建てた建物が焼ければ、その人は損害を受けますが、その人自身は火の中をくぐるようにして助かります。

## 奨励

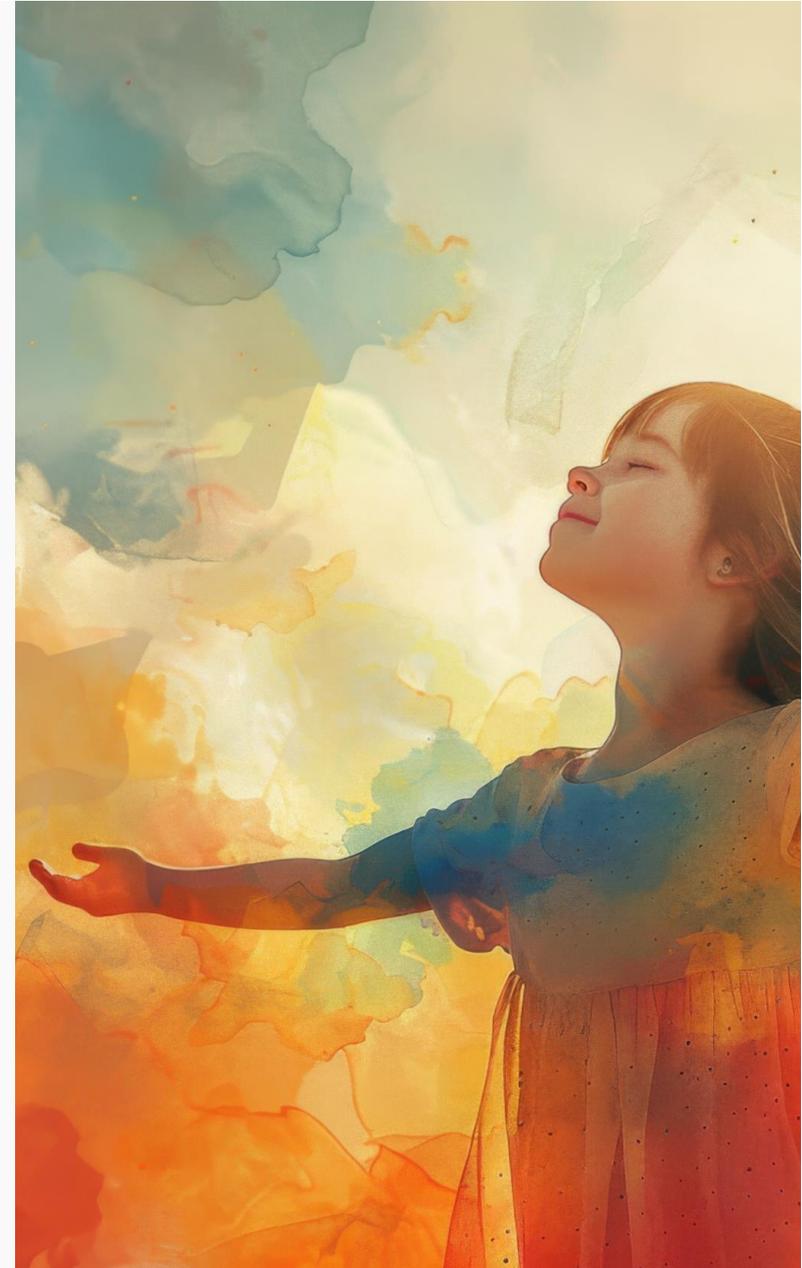
## 信仰の結果 ペテロ1:8～9

あなたがたはイエス・キリストを見たこと  
はないけれども愛しており、今見てはいな  
いけれども信じており、ことばに尽くせない、  
栄えに満ちた喜びに躍っています。

あなたがたが、信仰の結果であるたましい  
の救いを得ているからです。

■ 目には見えない、主イエスを信じ、感じ、  
喜びに躍ることができる。

➡ 紛れもない信仰による救いの結果



## 挨拶

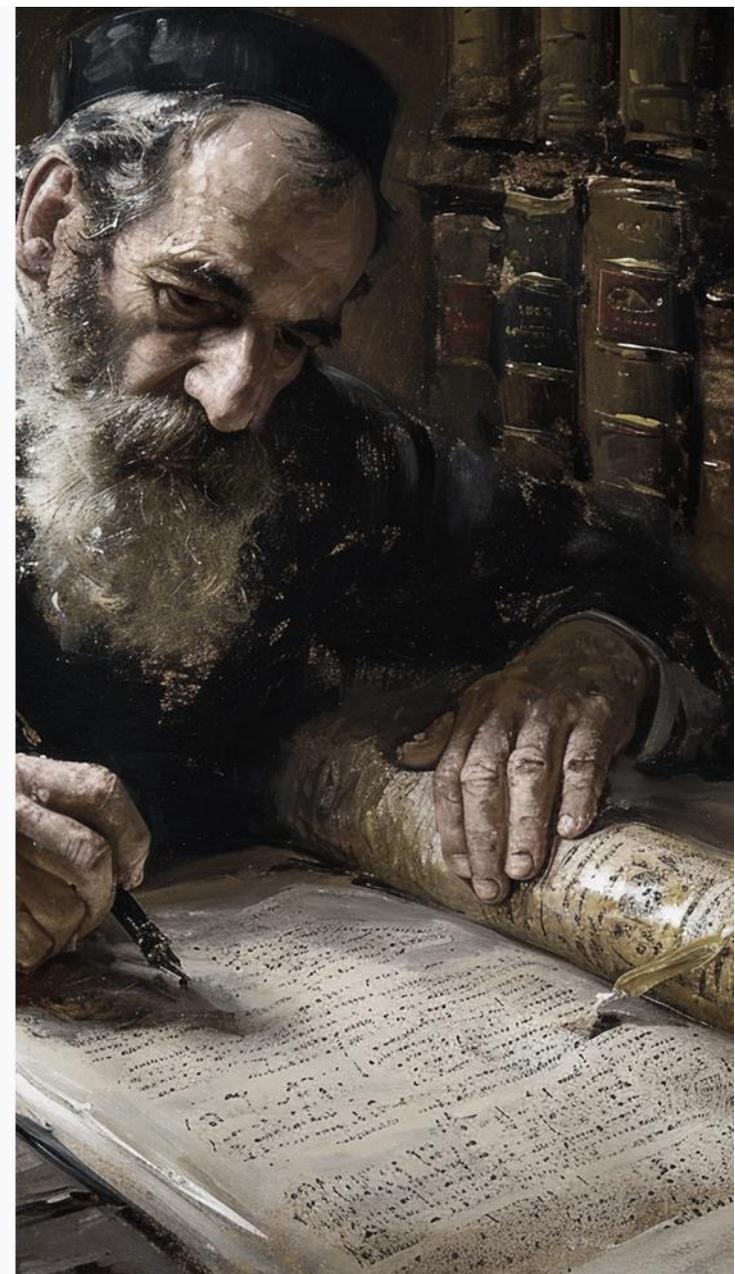
## 恵みの預言者 ペテロ1:10~11

この救いについては、あなたがたに対する恵みを預言した預言者たち\*も、熱心に尋ね求め、細かく調べました。

彼らは、自分たちのうちにおられるキリストの御霊が、キリストの苦難とそれに続く栄光\*を前もって証ししたときに、だれを、そしてどの時を指して言われたのかを調べたのです。

\*恵み = メシア。メシア預言と預言者たち

\*預言されていた、初臨のメシアの受難と栄光の王として来られる再臨のメシア



## 挨拶 預言者の奉仕の上に ペテロ1:12

彼らは、自分たちのためではなく、あなたがたのために奉仕しているのだという啓示を受けました。そして彼らが調べたことが今や、天から遣わされた聖霊により福音を語った人々\*を通して、あなたがたに告げ知らされたのです。御使いたちもそれ\*をはっきり見たいと願っています。

\*はるかな将来の信者の私たちのために奉仕

\*使徒たち。福音宣教者たち。

\*信者の救いの完成、神の王国





### Ⅲ. まとめと適用

次の世代の誰かのために

トルコ・アララテ山

## 再三確認される 救いの成長の三段階

- ①義認** …私の罪のため、十字架で死なれ、葬られ、復活された主イエス・キリストを信じて救われる。  
→新生、聖霊の内住、永遠の救いの保証
- ②聖化** …聖霊に助けられ、信仰によって成長していく。
- ③栄化** …御国で栄光の体が与えられる。信仰の完成。

## 受け継がれてきた恵みのバトン

- ① 預言者 …“自分たちのためではなく、あなたがたのために”
- ② 使徒 …“天から遣わされた聖霊により福音を語った”
- ③ 私たち …“(メシア)信仰の結果であるたましいの救いを得ている”

この恵みを 私たちの手に握りしめたままがいい？

## その苦しきは、信仰の停滞が原因では？

■ 信仰者が味わわされる苦しきには二種類ある

### ① 信仰ゆえの苦しき

➔ 信仰の成長によって乗り越えていける ➔ 希望がある

### ② 信仰の停滞ゆえの苦しき

➔ ぐるぐる回るばかり ➔ 出口がない 深まる絶望

**抜け出す道は同じ。恵みの福音を携え、遣わされること!!**

## ★ 福音は、私たちのためではなく ★

■ 世の終わりが近いから、ただ待っていればいい？

➔ 使徒たちも、携拳が迫っていたのは同じ

パウロは西に、ペテロは東に福音を伝えていった。

■ 預言者も使徒も、切羽詰まった終末と今ある苦難の中、それでも神の約束に基づく希望を次に伝えていった。

➔ 世の終わりだと騒ぐ暇があったら福音を伝えよう

**与えられた救いの恵みは、誰かに手渡すためにある**

「天のお父さま。わたしは、あなたに背き、罪を重ねてきました。  
日々犯してしまう罪をも告白します。この罪をゆるしてください。  
わたしは、神のみ子イエス・キリストが、

①わたしの罪を贖うために十字架で死に、

②墓に葬られ、

③三日目に復活したこと、を信じます。

預言者たちは、苦難の中、私たちのためにメシアの預言を記しました。

使徒たちも、迫害を受けながら、新たな啓示を残してくれました。

私も、与えられた福音を携え、遣わされていきます。

主が用意された人に、主の恵みと希望を手渡すことができますように。

主イエス・キリストのみ名によって祈ります。 アーメン」